

宮前小学校学校だより 2014. 12. 1

## 師走 12月・・・時の流れを 考えよう・・・!

学校長 内田敏夫

師走12月。ながいながい1年の締めくくりの時が来ました。ある人はアツという間の1年間…、またある人はやっと終わった1年間…。長く感じたり、短く感じたりするものが、時間です。

人は、その時々心の持ち方で「時の流れ」を長く感じたり短く感じたりするものです。何かに夢中になって取り組んでいる時は、“アツという間”が当てはまり、嫌々取り組んでいる時は“やっと終わった(過ぎた)”が当てはまりそうです。この時の流れを、いくつかのお話を通してその大切さを述べたいと思います。

皆さんは「石の上にも3年…」と言うことわざを知っていますよね。このことわざの意味は「冷たい石の上でも三年間も座り続ければ暖まる」という意味ですが、本当の意味は、何事にも忍耐強さが大切だということを私たちに教えてくれています。ここで言う「三年」は三年ちょうどの意味ではなく、多くの月日(多くの時の流れ)を表しています。この忍耐強さを説明するのにとてもふさわしいお話があるので紹介したいと思います。

古くから比叡山には、山中や京都市内を、7年がかりで千日間計約4万キロ歩く千日回峰行という荒行があります。千年を超す比叡山の歴史の中で、2度の千日回峰行をやり遂げた人はわずかしかないそうです。その一人が、昨年お亡くなりになった酒井雄哉(サカイユウサイ)氏です。

酒井氏は、天台宗のお坊さんで大阿闍梨(だいアジャリ)と言われるお坊様の中のお坊様、スーパーお坊様でした。千日回峰行の700日が終わると、修行のクライマックスとして「堂入り」に入ります。ここでは、9日間食べ物も水も断ち、眠らず、横にもならず経を唱え続けるそうです。医者に言わせれば「間違いなく死ぬ」と言われています。また、この行は途中でやめると自分で命をたつと言う決まりがあり、「始めたら必ずやり遂げる」という覚悟を持って始めなければならなかったそうです。やりきるか、やめるなら死ぬ、ということ。そのため自害用の短刀をいつも持って回峰が行われていたそうです。

さて、酒井雄哉氏のように千日間歩くこともすごいことですが、人生で3年間(千日間)何かに集中して取り組むことはできないのでしょうか…?新しいことを始める・・・なんでもいいです。毎日10時間を1年間集中して続けてみる。1年間で、10時間×365日間=3650時間。これを3年=1000日続けると約【一万時間】になる。どんなことでも一万時間続けられれば、誰でも必ず、いいところまで行ける。そう思いませんか?これこそ、「石の上にも3年…」と言うことわざに繋がります。

この世の中には、時の流れを味方にして自分のものにできる人とそうでない人がいます。これから

の世紀を創っていく子どもたちにとって、時間の使い方と時刻を守ることはとても大切なことです。また、始めたことを最後までやり遂げる忍耐力は、上手な時間の使い方にも繋がります。

さて、右の言葉は、過日おなくなりになった大俳優、**高倉健**さんが座右の銘(ザユウノメイ=常に自分の心にとめておいて、戒めや励ましとする格言のこと)としていた言葉です。

「往く道は 精進にして  
忍びて終わり 悔いなし」

この言葉の意味は、「物事は成就するまでは精進(ショウジン = 一生懸命に努力すること)を続け、どんなに苦勞しても悔いはない」という意味です。この言葉こそが、先に述べた比叡山の阿闍梨、スーパーお坊様酒井雄哉氏が、高倉健さんに送った言葉だったのです。私は、高倉健さんがとても大好きで、健さん主演の映画はずいぶんと観てきました。健さんの演技は、寡黙な中にも芯の通った生きざまを、スクリーンを通して私たちに伝えてくれていました。私は、この言葉の意味をかみしめ、やり始めたら必ずやり遂げると言った思いを持って欲しいと願っています。

師走12月は、時間の使い方を考える年度納めの月にしたいものです。



- 2日(火) 交流音楽会(4年生)
- 3日(水) いじめなくそうデー  
1年4組 研究授業
- 6日(土) 家庭科作品展(～7日)
- 9日(火) 県学習到達度調査(4～6年生)
- 10日(水) クラブ
- 11日(木) 移動図書館  
カウンセリング
- 13日(土) うどん作り
- 14日(日) 市P合唱祭(市民館)
- 23日(火) 天皇誕生日
- 24日(水) 終業式 11:50下校
- 25日(木) 移動図書館

日曜参観の講演会では、中西実先生が楽しくしかもじ～んと心に響くお話をしてくださいました。子どもの頃は引込み思案で、激しいいじめを受けていたというご自身の経験から、子どもの心に寄り添い、多くの子どもたちを立ち直らせ大きく成長させてくれました。45歳から始めたというピアノと心にしみる歌も感動的で、「アツという間」に時間がたっていました。



11月28日のオペラ鑑賞会は、すご～い迫力で、体育館中に響く素晴らしい歌声でした。体全体が一つの大きな楽器のようでした。楽しいパフォーマンスを入れながら歌ってくれたり、「アトと雪の女王」など子どもたちもいっしょに歌う場面もあり、「心に残る時間」を経験できました。

